

いわての看護

Iwate Nursing



北上市 夏油温泉の秋



岩手県看護協会 LINE 公式アカウント 開設しました!!
友達登録をよろしくお願いします。<(_ _)>



●令和7年度 岩手県看護協会 会員数の動向

保	助	看	准看	計
274人	292人	6,685人	104人	7,355人
令和7年度 災害支援ナース登録者			144人	

令和7年11月16日現在



竿灯祭りの秋田県



♪花の山形あ〜県

特徴があって
メッチャ可愛い♡

北海道・東北5県の
“かんばんちゃん”を
3回シリーズで
紹介しちゃうよ!!



令和7年度 職能合同集会

頼るスキル、頼られるスキルの磨き方

～ 受援力を発揮する「考え方」と「伝え方」のコツ ～

日時 令和7年9月6日（土）13:00～14:50

会場 岩手県看護研修センター（ハイブリッド開催）

講師 吉田穂波氏（神奈川県立保健福祉大学大学院ヘルスイノベーション研究科教授／産婦人科医／医学博士／公衆衛生学博士／産業医）

令和7年度職能合同集会は、吉田穂波氏を講師にお迎えし、受援力を発揮する考え方と伝え方を学びました。

吉田氏は初めに、AIの活用が広がり正しい答えを容易に導きだせる今、人間だからこそできることは「つながること」「巻き込むこと」「寄り添うこと」であると話されました。そこで、参加型・一期一会・柔軟性の3つを大事に進めるため、約90名の参加者が会場とオンラインとでグループとなり、4職能の委員が交流し、共に語らい学び合いました。

受援力とは、相手に助けを求め受け入れる力であり、防災用語が始まりということですが、現在は生きる力や周囲と繋がるための力として再評価されているそうです。対人援助に関わる私たちは、誰かのために何かしてあげたいとの思いから、頼ることを苦手とする人が多いと吉田氏ご自身の経験も交えて話されました。しかし、頼ることはプロとして大事な力であり、弱さではなくその場を何とかしようとする強さであるとの言葉が印象的でした。さらに、頼ることは信頼の証であり、つながるためのコミュニケーションスキルの一つであると認識を新たにしました。

頼る時の伝え方のコツは、K（敬意）、S（存在承認）、K（感謝）であると学び、グループで行った受援力ゲームでは、参加者に笑顔が広がっていました。また、頼ることは感情労働でもあり、自分自身をよい状態に保つ必要性も学びました。

アンケートでは、非常に満足・満足を合わせ100%と高評価でした。感想には「受援力を学んで少し心が軽くなった」「頼り頼られることで信頼関係が深くなるとの言葉に頷いた」「講師が参加者の実情に寄り添いながらお話してくださり心地よく感じた」など、心に響く研修であったと感じました。今後も様々な企画を行っていききたいと思います。

（看護師職能委員！ 長澤 昌子）



常に笑顔の吉田穂波氏



真剣にディスカッション（GW）

受賞、おめでとうございます

秋の叙勲

瑞宝双光章

白根 ハマ様

瑞宝単光章

松戸 アサ子様

保健医療功労者
知事表彰

富山 美智子様／吉田 敬子様

小田島 淳子様／小野寺 富子様

松浦 眞喜子様

保健師研修会「次世代につなごう！いわての保健師活動」

日 時 令和7年9月27日（土）13:45～16:30 会 場 アイーナ 参加者 23 名

第1部 講演「ケアのためのエネルギーチャージ セルフ・コンパッション」

武蔵野大学ウェルビーイング学部 教授 秋山美紀氏をお招きし、看護職はより質の高い看護を行うため、自身が健康で楽しくなければならぬと、ウェルビーイングの向上についてお話しいただきました。職場の幸せの基盤は、P（Purpose 目的）、E（Engagement やりがい）、R（Resilience 困難を乗り越える力）、K（Kindness 親切心）であること、思いやりにはエンパシーとコンパッションがあり、職場にコンパッションを目覚めさせるため、気づく・理解する・感じる・行動することが必要なこと、自分の気持ちに寄り添い、成長を願うことがセルフ・コンパッションである等、職場や私生活においても即実践できる内容でした。



第2部 保健師活動実践報告「大船渡市の母子保健～こどもまんなかのまちを目指して～」

大船渡市こども家庭センター所長補佐 佐藤由美子氏から、先駆的取組（こども家庭センター、5歳児健診）や災害時（林野火災）保健活動等についてお話しいただきました。地域に寄り添った活動を知ることができました。保健師同士がつながる貴重な機会となりました。



（保健師職能委員 芳賀 美佳）

看護師交流会「病院看護と地域看護をつなぐ」

日 時 令和7年8月20日（水）13:30～16:00
参加者：34名（会場22名、オンライン12名）

内 容 ①「病棟看護師から訪問看護師になって」

講師：訪問看護ステーションはなえみ 看護師 久野 美折 氏

②「訪問看護での工夫困難事例への対応、うれしかった瞬間エピソード」

講師：訪問看護ステーションはなえみ 看護師 中川 里美 氏

③グループワーク「病院看護師と訪問看護師で協働できること」



今年度は、病院看護師（看護師職能I）と訪問看護師（看護師職能II）との交流会を開催しました。久野氏からのお話では、「生活の場に根差した患者中心の看護」「思いや希望を尊重した支援」が印象的でした。限られた医療資源を工夫し、家庭のものを活かして環境を整える姿勢や、短時間で生活状況から変化を見抜く観察力は、ナイチンゲールの『看護覚え書』に通じるものを感じました。また、特定看護師の訪問により、医療的処置が必要な方の定期受診が減り、患者や家族の負担軽減になることも学びました。グループワークでは、自宅で暮らし続けるための協働について意見交換しました。サマリーに性格や趣味なども記載し情報共有を充実させ、退院指導の内容を統一するなどの提案がありました。

治療の場から生活の場へ、患者家族に寄り添い切れ目ない支援の重要性を再確認し、「退院後の生活」「地域とのつながり」を意識した看護の必要性を感じました。

（看護師職能委員長I 佐藤 加代子）

看護師職能委員会II主催「介護施設等で働く看護職の集い」

日 時 令和7年10月15日（水）13:30～15:30（ハイブリッド開催）
講 師 たにむらクリニック 皮膚・排泄ケア特定認定看護師 及川 香菜恵 氏

講演では、高齢者のスキンケアや皮膚トラブル予防の大切さ、実践的な知識・技術の習得についてあらためて学ぶ機会となりました。スキンケアの3原則である皮膚の洗浄・保湿・保護が一連の流れとして継続して行うことの重要性など興味深く、自施設ですぐに共有・実践したいと思いました。質疑応答では、各施設の悩みなど活発な意見交換となりました。アンケートでは「すぐに実践に取り入れやすい」「自施設の課題について、分かりやすく実践可能な対処法を知ることができた」などがあり有意義な機会となりました。今回は例年を上回る34名の方に参加いただき、介護施設で働く看護師の高齢者へのスキンケアに対する関心の高さを感じました。



今後も高齢者のQOLを高めつつ維持できるよう、予防的スキンケアに努めていきたいと思います。

（看護師職能委員II 岡本 明美）

常任・
特別委員会

活動のPoint

Activity Point

働き続けられる環境づくり推進委員会

委員長 木村 美貴



今年度の活動は、昨年度に続きヘルシーワークプレイスの情報発信として、働きやすい職場環境をテーマに「いわての看護」へ掲載しています。是非ご覧ください。また、岩手県内の病院における「看護職員の賃金に関する実態調査」を予定しています。

岩手県の現状把握と分析を行い、これからも活き活きと働き続けられる職場環境づくりの支援に活かしていきたいと思います。

Activity Point

学会委員会

委員長 田村 聖子



学会委員会は、看護職の専門性向上と研究活動の推進を担っています。11月29日には岩手県看護研究学会を開催しました。この学会では、多くの施設で取り組んだ研究成果を共有し、よりよい看護を実践していくための新たな発見・気づきが得られる場を提供しました。テーマの「看護の未来を拓くイノベーション」として看護職が連携し、質の高い看護の発展に貢献することを目指し開催しました。来年度は参集での学会予定ですので、看護のあり方を再考する場として活用していただければと思います。

Activity Point

教育委員会

委員長 佐々木 恵美子



教育委員会は、各研修の評価と次年度の研修計画の企画検討を行っています。医学や看護の進歩に合わせ、現場で求められている看護の知識・技術・態度を重点的に考え、会員の皆様が様々なフィールドで実践に活かすことができる研修内容を教育部とともに企画しています。また、マナブルから入力している研修アンケートは直に皆様の声が反映される貴重な手段となっております。次年度の研修企画検討のため、引き続きアンケートにご協力をお願いします。

Activity Point

広報出版委員長

委員長 鈴木 睦



機関紙「いわての看護」の年3回の発行に向けた活動を、メンバー8名で行っています。看護の現場での取り組みや時代に沿ったトピックスを発信していきます。本誌が皆さまの気づきや学び、情報収集の一助になれば幸いです。届けたい声、ご要望などございましたら、どうぞ看護協会までご意見をお寄せください。会員の皆様に原稿依頼をお願いすることもあると思いますので、その際はご協力の程よろしく願いいたします。

Activity Point

会員委員会

委員長 伊藤 亜希



会員委員会では、会員増に向けて看護協会教育部企画研修会（新人看護研修対象職員など）での入会案内、看護学生への入会啓発、地域別懇談会へ出席し会員加入についての情報提供および地域の活動状況の把握、会員特典の検討、入会案内パンフレット配布施設の検討を行っています。

今年度より入会案内は新たなものを配布しています。お目に留めていただきぜひご覧いただけますと幸いです。会員増に向けて皆様のご協力をお願いします。

Activity Point

推薦委員会

委員長 伊藤 ゆかり



推薦委員会は、本会の役員、推薦委員及び職能委員並びに日本看護協会の代議員・予備代議員候補者を推薦する任務を担っています。

円滑な役割遂行にむけ、推薦委員会において岩手県看護協会定款・規約に関する学習会を行い、改選役員・委員への交渉について留意事項を確認しながら8名の委員で進めていきます。

皆様のご協力をいただきながら活動を進めていきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

Activity Point

認定看護管理者教育運営委員会

委員長 出口 育美



看護管理を学ぶ看護職の育成を目的に、認定看護管理者教育課程ファースト・セカンド・サードレベル研修の企画・運営・評価、研修要項や受講者の選考・修了者基準などに関して協議検討を行っています。受講者の学びが深まり、様々な場で生かされることを期待しています。今後は認定看護管理者制度の見直しに伴い、研修内容が変わります。それを加味し、多様なニーズに対応できる看護管理者が育成できるよう活動したいと思います。

Activity Point

防災・災害看護委員会

委員長 畠山 亜紀子



災害支援ナースの仕組みが変わり、災害と感染症に対応できる看護職の養成・応援派遣体制の構築に取り組んできました。2025年11月末現在、災害支援ナース登録者は144名となりました。毎年、岩手県総合防災訓練に災害委員2名が参加し、避難所の健康相談と見守りなどの訓練を通して、多職種連携の確認を行っています。今年度、初めて委員以外で災害支援ナース1名も一緒に参加しました。

今後も災害支援ナース登録促進に向けて、各施設長や看護管理者の理解と協力を呼び掛けていきたいと思っています。

Activity Point

医療・看護安全対策委員会

委員長 浅尾 洋子



当委員会は、「患者の安全」「医療従事者の安全」をテーマにリスクマネージャー交流会を開催しています。今年度の交流会テーマは、昨年度に引き続き「患者・家族からの苦情、暴言への組織的対応」とし、実践に活かすための話し合いがもたれました。また、9月17日は「世界患者安全の日」で、各地で様々な取り組みが行われています。

職員一人ひとりが自分事と捉え、医療安全に取り組むことができるよう委員会活動を行っていききたいと思います。

Activity Point

看護研究倫理審査委員会

委員長 御供 優子



看護研究倫理審査委員会は、倫理審査を受けたいけれど、自施設に審査部内がない場合やその他の場合を含め、対応させていただきます。また、看護研究・調査の倫理に関する相談対応もしています。随時受け付けていますので、疑問やお困りごと等あればご相談ください。昨年度、研究に取り組む会員の皆様が見本として活用できるよう「研究・調査計画書の記載例」を作成しました。岩手看護協会のHPに掲載していますので、ご活用ください。

役員・委員・会員セミナー

即現場で実践できる！『笑撃コミュニケーションスキル』

日 時 令和7年8月9日(土) 13:30～15:30 <オンライン開催> 参加者 73名

内 容 ～オンライン上は笑いの雰囲気包まれて～

WM commons W マコト 中原誠・中山真氏のお二人が講師を務めるセミナーを開催しました。お二人は現在、お笑い芸人から放送作家に転身してテレビやラジオ、CMなどを手掛ける一方、様々な企業や医療関係などで講演や研修なども行い活躍しています。

研修は、お笑い芸人の名前を当てるクイズから始まり、オンライン上の参加者が瞬く間に明るく、和やかな雰囲気に包まれました。

活躍している芸人は、単に笑いをとるだけでなく、相手を喜ばせ、輝かせるための質の高いコミュニケーション術を持っているというお話が心に残りました。お二人は長年の研究に基づいた「バラエティ式笑顔循環論」を提唱し、コミュニケーションや笑顔が「関係性」「連携性」「自発性」「安全性」に良い影響を与えることを実証されています。

私たち看護職にとって、患者さんと信頼関係を築き適切なケアを提供するためには、コミュニケーションスキルが非常に重要です。傾聴や共感、非言語的コミュニケーション、伝達力といったスキルを駆使し、患者さんの不安を和らげ正確な情報を引き出す必要があります。今回の研修で、W マコトのお二人が参加者一人ひとりを輝かせ、印象的な存在へと変えていくプロセスは、看護の現場でも活かせるヒントに満ちていました。アンケート結果では、「大変満足」「満足」が9割を超える高評価でした。

最後に、「コミュニケーションの肝は笑顔とあいさつ」という教えを胸に、各職場での活性化につなげていきたいと思えます。

※日本看護協会の助成事業により、非会員も参加可能としました。

(副会長 佐藤 悦子)



オンライン上のお二人
(左・中山真氏、右・中原誠氏)



看護職を目指す中学生・高校生等の進学セミナー開催

今年度の「進学セミナー」は、7月30日に北上市、8月5日に盛岡市で開催しました。参加学生は、北上27名・盛岡65名、学生以外は両会場合わせ保護者17名、社会人3名でした。

北上会場では当日、津波警報が発令され、看護教員1名と学生1名が急遽不参加となりましたが、セミナー自体の運営には影響なく終了できました。

盛岡会場では、今年度初めて白衣メーカーの協力を得て歴代白衣の展示を行いました。アンケートでは「素敵だった」「看護に興味を沸いた」等の回答がありました。

両会場とも、昨年同様15分毎に最低3つのブースを訪問できるよう工夫し、参加者の途中退席もなく盛況でした。また、入学面接練習には、両会場15名が希望し看護学校の先生方の協力により、面接時に必要な態度・言葉使い・整容等について助言を受けていました。

参加者の88%が「各学校の特色を一気に知る機会となって良かった」「看護師になりたい」と答えていただきました。

昨今、多くの就学・就職イベントがある中で、少子化の影響もあり参加人数は減少しているものの、岩手県内で看護職に特化したイベントは進学セミナーのみであり、開催のメリットは大きいと感じました。

(ナースセンター事業部長 柳田 美喜子)



ナースの心を伝えたい
白衣の歴史から看護を知る



看護系大学・看護学校の紹介
看護学生から各学校の特徴を紹介



盛岡会場のブース相談
各ブースとも盛況でした

岩手県保健福祉部との懇談会

去る9月9日、保健福祉部との懇談会を開催しました。事前に当会から3つのテーマを設定し、担当職能理事及び会長から説明しました。

テーマ① 地域における健康・療養支援体制の強化及び保健師の確保と活躍推進に向けた取組について

多様化・複雑化する健康課題に対し、自治体保健師と連携し産業保健師にも重要な役割発揮が求められる中、産業保健体制の充実・強化について懇談しました。また、保健師確保として、岩手県初の取組である「共同選考採用（県北・沿岸）」の進捗についてお聞きし、少ないながらも応募があり採用決定に至った自治体もあるとの事です。

テーマ② 助産師活躍推進及び助産師教育における助産学実習の現状について

冒頭に、助産師職能委員会が取り組んだ院内助産開設推進ガイドブック「院内助産 ことはじめ」を紹介し、野原保健福祉部長から、とても見やすく参考になるとの感想をいただきました。また、助産師出向システムの構築が難しい現状を踏まえ“研修型助産師出向”を提案し、今後につながる意見交換となりました。助産学実習で分娩10例の困難性があり、新人助産師との調整の苦慮についても共有できました。

テーマ③ 医療的ケア児の支援拡大に係る取組（案）について

昨年7月に開設した「訪問看護総合支援センター」の取組状況について高橋センター長から説明し、継続的な支援をお願いしました。医療的ケア児や学校看護師への支援策として、訪問看護師による学校への巡回訪問を提案しました。また、当県の現状とデータを示し、介護老人保健施設での医療的ケア児の受入れについても提案し、医療的ケア児や家族のために切れ目のない支援体制の構築が必要であることを共通認識できました。

（専務理事 高橋 弥栄子）



看護協会の説明・要望に対し、県の取り組みの方向性など、前向きなコメントをいただき有意義な懇談となりました。



看護協会15名



保健福祉部12名

令和7年度「助産師活躍推進セミナー」

日時 令和7年8月30日（土）10:00～12:00

会場 ホテルメトロポリタン盛岡本館 4階 姫神

内容 ①助産師活躍推進事業の紹介 岩手県保健福祉部医療政策室

②講演「周産期におけるこころの不調に気づき・防ぐためには」

講師：岩手医科大学医学部神経精神科学講座 准教授 福本 健太郎 氏

参加者：22名（保健師3名 助産師19名）



「周産期メンタルヘルス」に造詣の深い福本氏

はじめに、医療政策室より昨年度後半から開始となった本事業について、今年度は産後ケア事業に着目し、「主に看護人材確保の側面から、市町村の産後ケアを支援する」ことを目的に展開していると説明がありました。

講演では、福本氏より当事者の苦悩を理解するために、本人・家族を含め育児困難を多面的に理解することの必要性が話されました。そのために、どのような情報収集をしたら良いのか、支援者一人で一人の母親（家族）を抱えてもうまくいかないことが多いため、多職種でのかかわりが重要であるご教示いただきました。さらに、母親だけでなく、子どもと家族を含めて介入すること、関係性を構築するために、人としての共通感覚に基づく患者の尊重、患者の語りに率直に耳を傾ける態度が必要とのこと。その後、受け答えのテクニックや支持的介入・質問紙による評価等について、実際の場面を示しながらお話いただきました。受講者は、自身の日々の経験を重ねながら、これまでのかかわりや対応を振り返り聞くことができました。セミナー終了後、講師や参加者同士で情報交換する場面が見られ、良い機会となったようです。

今年度は、令和8年1月24日（土）に2回目のセミナー開催を予定しています。準備が整い次第、ホームページ等に掲載しますので、関係の皆様参加をお待ちしています。

（助産師活躍推進コーディネーター 吉田 敬子）

医療的ケア児関連 連載第2回

「医療的ケア児に対する災害時のサポート」

県内でも豪雨被害や林野火災など、自然災害がより身近に感じられるようになりました。医療的ケア児者のご家族からお話を伺うと「雨が強くなっても、どの段階で避難したらいいのか?」「電源を準備したいが、どのようなものを購入したらよいのか?」など、有事の備えについて何から始めたらいいかわからないという声が多く聞かれます。

医療的ケア児者に対する災害時の支援については、平成25年に避難行動要支援者名簿の作成が義務化され、令和3年には個別避難計画の作成が市町村の努力義務となり、災害時にどのように避難するか具体化が課題となっています。

岩手県医療的ケア児支援センターでは令和4年の開設時から「災害時支援のための勉強会」と題し、県復興防災部や県立大学にもご協力いただきながら、法律改正の内容や避難訓練を行った自治体の事例発表、マイタイムラインや個別避難計画の作成など、4回にわたり研修会を開催し災害に対する取り組みを行ってきました。

また、盛岡市、一関市、宮古市、矢巾町が自治体主導で行った避難訓練にも参加しました。盛岡市と一関市では、医療的ケアのモデル人形を用いた事前訓練を行った上で当事者ご本人も避難訓練に参加し、事前訓練の結果を反映させることができました。その後も医療的ケア児者の避難訓練を行う自治体が増えており、個別避難計画の作成にもつながっています。

今年5月、これまでの災害時支援の成果をまとめた「令和7年度版 岩手県 医療的ケア児災害時支援取組み事例集」を作成しました。医療的ケア児者が地域で安心して暮らすために、当事者はもちろん看護師の皆様をはじめとする支援者の方々にもご活用いただければと思います。

(岩手県医療的ケア児支援センター
医療的ケア児等コーディネーター 大力 聡美)



市民公開講座の災害体験コーナー



令和7年度版
岩手県医療的ケア児災害時支援
取組み事例集

「岩手県医療的ケア児支援者育成業務」 交流研修開催

日時 令和7年8月23日(土) 10:00～16:00 参加者:19名
講師 岩手県医療的ケア児支援センター 医療的ケア児等コーディネーター 大力 聡美
 訪問看護ステーションありがとう 看護師 澤口 るり子
 訪問看護ステーションねこのて 管理者 佐々木 誉子

令和2年度から開催している「岩手県医療的ケア児支援者育成業務」研修ですが、今年度、初めて交流研修を開催しました。大力氏より「保育園・学校における現状と課題」について、澤口氏より「学校における訪問看護の活用事例」についてお話いただきました。佐々木氏からは「人工呼吸器装着児等への訪問看護の実際」について、具体的なお話がありました。講師のお話から、医療的ケア児の情緒や社会性の発達を考慮した関わりの大切さについて学びとなりました。

その後、講師をファシリテーターとして3グループに分かれ、医療的ケア児に関する情報交換と課題の共有を行いました。参加者の就業先は訪問看護ステーション、保育園、小学校、特別支援学校、市役所、障害福祉サービス事業所など様々でしたが、活発に情報共有や意見交換を行う様子が見られ、「多様な職場の方と話すことで勉強になった」などの感想が聞かれました。

現在、医療的ケア児に関わっている看護職はまだ多くありません。今回の交流研修をととして、看護職同士がそれぞれの施設で頑張っている仲間を知ること、少しでも活力につながることを期待しています。

(研修担当 菊池 由美)

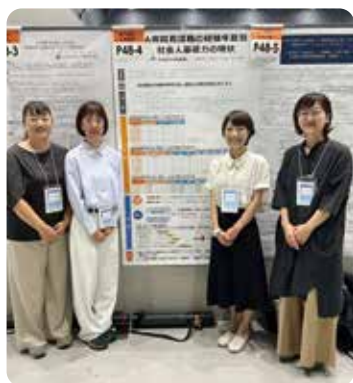


講師(向かって奥)がファシリテーターとして参加し、最後は、皆さん笑顔で終了しました!



第56回日本看護学会学術集会に参加して

9月12日から14日の3日間、第56回日本看護学会学術集会がポートメッセなごやで開催されました。最適な看護をマネジメントする～「よい看護」を「どこでも」「ずっと」～をテーマに、看護職に求められるマネジメント、2040年に向けた将来ビジョン、地域連携、キャリア支援など多岐にわたり議論されました。日本看護協会 秋山智弥会長の基調講演では、デジタル技術やデータ活用によるDXが進み、ロボット導入やオンラインサービスに移行していく。技術革新の波が押し寄せても対象に関心を持ち、全人的に看ている看護職だから導き出せる気づきやアセスメントや対応は、ロボットやAIでは代行できないと話されていました。一人ひとりの意思を最大限尊重し、マネジメントする重要性を再認識しました。特別企画ではスタジオジブリの鈴木敏夫さんの話をお聞きました。私はジブリ作品が大好きで、映画製作秘話やジブリパークが開園するまでの苦労話、宮崎駿さん、宮崎五郎さんとの裏話も聞くことができ、とても楽しい時間でした。今回はジブリパークに行くことはできませんでしたが、ぜひ行きたいと思わせる内容でした。



「看護の未来を語り合おう」では、看多機の取り組みや糖尿病コーディネーター看護師の話聞くことができました。医療的ケアが必要な小児が18歳となり、行き場がなくなったことをきっかけに共生型を導入し、若年者ケアに取り組んでいるとのことです。若年世代の支援が課題であり、多職種と連携しながら支援していく必要があると感じました。

多くの講演が開催されるなか、600題を超える一般演題発表がありました。自施設でも「A病院看護職の経験年数別社会人基礎力の現状」のポスター発表を行いました。多種多様な発表テーマがあり研究成果など新たな示唆を得ることができました。

(岩手医科大学附属病院 佐々木 由希子)

令和7年度大規模地震時医療活動訓練

9月5・6日の2日間、大規模地震時医療活動訓練が行われました。この訓練は内閣府、厚生労働省、DMAT事務局、都道府県、日赤など多機関が参加して毎年実施されていますが、岩手県で行われるのははじめてです。今年度は日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震が発生し、北海道・青森県・岩手県及び宮城県に甚大な被害が発生したという想定でした。災害支援ナース養成研修を受託している岩手県看護協会は、県からリエゾン派遣を依頼され9月6日の訓練に参加し、山形県のDMATチーム及び県庁職員2名と共に、保健医療福祉調整本部の中にある「活動指揮班」に入りました。

活動開始と共に、県庁内の別室にある災害対策本部や県内の災害拠点病院から様々な情報や要請が届きます。同じ班のDMATの方々は、EMIS（広域災害救急医療情報システム）やクロノロジー（時系列記録）を参照あるいは記載しながら災害拠点病院とやり取りをしています。テキパキと対応するDMAT隊員を横目に今回の訓練で感じたことは以下の2点です。

1. 災害支援ナースの派遣依頼ルートの明確化と周知

訓練中に「EMISに載っていない沿岸のクリニックから、災害支援ナースを派遣して欲しいという依頼があった」という情報が届きました。一刻も早く派遣したいところですが、「災害支援ナースの派遣依頼ルートは？」と同じ班のDMAT隊員に問われ、依頼ルートの周知も必要だと感じました。

2. 正しい情報の入手

災害時にSNSからデマ情報が拡散され、命にかかわるリスクにつながったというニュースを聞くことがあります。今回の訓練でも、デマではありませんが、情報が伝わらなかったために危うく病院避難になる事例があり、正しい情報を入手する重要性を再認識しました。災害支援ナースもEMISのIDが付与されますが、活用できるような準備も必要となります。

災害支援ナースが安心してその力を発揮できるような環境づくりの大切さを考えさせられた一日でした。

(常務理事 目時 のり)

皆さん「岩手県訪問看護総合支援センター」をご存知ですか？

昨年7月に開設した当センターは、専門性を活かし支える在宅療養と人材育成の最前線！です。

高齢化が進む岩手県で「治し支える医療」を推進し、住み慣れた地域で安心して療養生活を送るための大切な役割を担っています。県内の訪問看護を支えることに特化していますが、特に力を入れているのは、「専門性の強化」と「各事業所の支援」です。

1. 専門性の強化

○「講師派遣研修・同行訪問」が大好評！

認定看護師などの専門性の高い看護師を講師として派遣し、要望があった訪問看護ステーションで研修や同行訪問を実施しています。このサポートは現場から大変好評をいただいております。今年度はすでに7カ所の訪問看護ステーションから、認知症看護や精神科看護など、専門分野の研修依頼があり実施しています。

○訪問看護「基礎・専門・管理」研修内容が充実！

研修プログラムをリニューアルして実施しました。昨年度、好評だったポータブルエコー研修は専門研修として継続し、精神科看護や小児看護など専門領域の科目を加えました。今後も皆さまのニーズに即した研修を企画していきます。

2. 現場支援

○現場の声を聞く県内各地域の訪問看護ステーションへの「巡回訪問」！

実際に各事業所を訪問し、日々の活動状況や具体的な課題を直接ヒアリングすることで、必要な支援をタイムリーに提供することを目指しています。

3. その他の主要な活動

質の高い訪問看護を継続的に提供できるよう、以下の支援も行っています。

- 経営支援：事業所の運営基盤整備や、新規開設に向けたサポート
- 人材確保・育成：潜在看護師の就業促進や、育成プログラムの実施
- 相談窓口：訪問看護に関する法律、制度、運営に関する様々な相談に対応

ぜひ、お気軽に運営や訪問看護師育成などのご相談に岩手県訪問看護総合支援センターにお越しください。



詳しくは、左記QRコードを参照して下さい！

(岩手県訪問看護総合支援センター長 高橋 栄子)



小児訪問看護研修【専門】



訪問看護研修【基礎】



精神科訪問看護研修【専門】



リソースナース紹介

緩和ケア認定看護師の活動状況

盛岡友愛病院 緩和ケア認定看護師
千田 優花



私は2021年に緩和ケア認定看護師の資格を取得しました。看護師となり最初に配属された外科病棟で、がんと告知され、治療を行ない、そして看取りまで、多くのがん患者さんをみてきました。これまで治療を頑張ってきた患者さんが、終末期となり徐々に衰弱し、病室の天井をみて過ごす姿をみて無力感を感じる日々でした。自分に何ができるのだろうか考えるなかで、緩和ケアに興味を持ちました。そして、緩和ケア認定看護師の資格を取得した先輩看護師の活動を身近でみていくなかで、私にもできることがあるかもしれない考えるようになりました。患者さんがその人らしく最期まで過ごせるよう、そして終末期の患者さんとの関わりのなかで自分と同じように悩みを抱えている看護師へのサポートができればと思ったのが、緩和ケア認定看護師になりたいと思ったきっかけです。

現在、緩和ケア病棟に所属し、看護実践や院内研修の講師などをおしてスタッフ育成に取り組んでいます。また、昨年度は地域での講演会の依頼もあり、緩和ケアへの質問に対して私自身の経験を含めながらお答えしなかで、地域の方から直接お話を伺うことができ貴重な機会をいただきました。緩和ケア外来が開設されて以来、在宅からの入院や自宅退院への支援に携わる機会が増えました。多職種連携は必須であり、患者さんや家族との橋渡しだけでなく、多職種間の橋渡しを担うこともあります。

患者さんがその人らしく最期まで過ごせ、ご家族やそれを支える側の支援ができるよう、日々の関わりを大切に、これからも活動していきたいと思っています。



ヘルシーワークプレイス!!

ー健康で働き続けられるためにー

シリーズ No.8

今回は岩手県医療勤務環境改善支援センター(岩手労働局委託事業)を紹介します。

働き続けられる環境づくり推進委員会



医療労務管理相談窓口から見た現場の声と支援

岩手県医療勤務環境改善支援センター

医療労務管理アドバイザー 大和田 朱美

医療機関ごとに管轄・機能・規模などが異なり、現場の課題もさまざまですが、その中でも共通して感じるのが「世代間の価値観のズレ」です。(本当に難しい課題ですね)

「働く」「育てる」をめぐる価値観が多様化する昨今。男女格差の色濃い時代を踏ん張って来られたベテラン世代にとっては、育児休暇やパパ育休などが“鉄壁の守り”にも見えてしまい、若手世代への何とも言えないモヤモヤを感じることも。人手不足のひっ迫感も重なり、「もう明後日の方向を見るしかない…」なんて声もお聞きます。(わかる～)

でも、世代が違ってほしいは一緒。患者さんのため、自分たちのために、働く環境をよくしたいという気持ちは共通です。そんな時こそ、当センターがお力になります!

以前実施した看護師さん向け意見交換会では、若

手・ベテラン問わず「業務負担」と「コミュニケーション」が共通の課題としてあがりました。コミュニケーションの難しさが属人的な業務負担やシフト調整の困難につながり、不公平感が生まれ、面談対応がパワハラと受け取られてしまう。そんなスパイラルが起きないように、診療科・委員会・組織全体でのご相談も可能です。

答えのない課題だからこそ、多様な視点を取り入れながら、一緒に環境改善を考えていきましょう。労務・メンタル・経営など、各専門家が無料で全6回対応いたします。(課題整理、事例提供、院内研修の実施、個別カウンセリングなど)

マネジメントに悩んだ時のパーソナルトレーナーとして、当センターが寄り添います。ご連絡お待ちしております。



相談窓口 ☎ 019-681-0997 ✉ iwate@task-iryo.com

訃 報

盛岡支部会員、若狭香様（岩手医科大学附属病院）が令和7年7月9日にご逝去されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

岩手県看護協会 令和7年度理事会報告

開催日	協議事項等
第3回 7月18日	(1) 公益社団法人岩手県看護協会災害見舞金規程の一部改正について →承認
第4回 10月17日	(1) 令和8年度事業計画について ①令和8年度事業予定（案） ②令和8年度岩手県看護協会が提供する研修について（案） ③令和8年度岩手県看護協会通常総会プログラム（案） →すべて承認

令和8年度（公社）岩手県看護協会改選役員及び推薦委員並びに 令和9年度（公社）日本看護協会代議員及び予備代議員の公募について

令和8年6月27日（土）に開催される、令和8年度岩手県看護協会通常総会において、改選役員並びに令和9年度日本看護協会代議員・予備代議員の選挙を実施しますので、立候補並びに立候補の届出方法などについてお知らせします。

1. 公募する役員は以下の通りです。

定款27条第1項により理事の任期は、1期2年と規定されています。今回の改選役員は以下の通りであり、通常総会で選任後、理事会において選定されます。

(1) 理事11名（任期2年）

- ①会長候補者……………1名
- ②副会長候補者……………1名
- ③常務理事候補者……………1名
- ④書記理事候補者……………1名
- ⑤会計理事候補者……………1名
- ⑥保健師職能理事候補者……………1名
- ⑦助産師職能理事候補者……………1名
- ⑧看護師職能理事候補者……………1名
- ⑨地区理事候補者（花巻、釜石、二戸）……3名

(2) 推薦委員1名（任期2年）

(3) 日本看護協会（任期1年）

- ①代議員……………8名
- ②予備代議員……………8名

2. 立候補及び推薦基準

- (1) 本会の目的達成のための活動に積極的に取り組み、任務を遂行できる者
- (2) 本会が定めた会議に出席できる者
- (3) 立候補は正会員5名以上の推薦を必要とする

3. 届出方法

当協会ホームページより届出様式をダウンロードし、下記あて郵送して下さい。

〒020-0117 盛岡市緑が丘2-4-55

公益社団法人岩手県看護協会

選挙管理委員会あて（立候補の場合）

推薦委員会あて（推薦の場合）

4. 届出締切日

令和8年3月6日（金）必着

※推薦いただいた方につきましては推薦委員会で協議のうえ、候補者として確定いたします。

※役員辞任に伴い改選役員の追加公示がある場合は、ホームページでお知らせします。

～外部理事の設置について～

令和7年4月施行の改正公益認定法により、公益法人に「外部理事」の設置が義務付けられました。これは、法人外部の視点を取り入れることで、意思決定の透明性と公正性を高め、健全な運営体制を確保することを目的としています。「外部理事」は、過去10年間に法人の業務執行理事や職員でなかった者であり、独立性が認められる人材です。理事会の監督機能を強化し、法人の私物化や閉鎖的な運営を防ぐための重要な制度改革とされています。

当協会では、令和8年6月開催予定の通常総会において、「外部理事」設置のための定款等の一部改正を行った上で、「外部理事」として1名を選任する予定です。

編集後記

12月に入り、寒さが厳しくなってきました。今年は大船渡の森林火災や猛暑、熊出没など、自然災害に翻弄された1年でした。さらに、インフルエンザが例年に比べ早く流行しています。感染対策を継続しながらの看護、日々お疲れ様です。今年もあとわずか、皆様よいお年をお迎えください！